

# 春の自然とふれあう

伊達市立堰本幼稚園(福島県伊達市)

[4 歳児]

## <園の考える「科学する心」>

子どもは本来知的好奇心のかたまりであり、その好奇心は、そのものに関心をもち「近づく」ことから始まり、「気付く」ことにつながるのではないか。	近づく	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立ち止まって見る</li> <li>・さわってみる</li> <li>・匂いをかぐ</li> <li>・耳をすます</li> </ul>
	気付く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然の美しさに気付く</li> <li>・色や形の面白さに気付く</li> <li>・動きや変化の不思議さに気付く</li> <li>・他の人の考えや感じ方に気付く</li> </ul>

気付いて心が動かされると「よく観る」(探す)「伝える」のではないか。	見る・聞く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動きや色、形をよく見る</li> <li>・他にもないか探す</li> <li>・周りの同じような物を見比べる</li> <li>・周りの音、鳴き声などを聞く</li> <li>・気付いたことを他の人に伝える</li> <li>・他の人の考えを聞く</li> </ul>
------------------------------------	-------	---



よく見て伝え合うことで、周りの子の「気付き」や「感動」も共有し「考える・調べる・やってみる」ようになるのではないか。	考えて行動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どうしてこんな色・形になったの?</li> <li>・これからどうなるのかな?</li> <li>・聞いてみる・調べてみる</li> <li>・相談し合う</li> <li>・考えたことをやってみる</li> </ul>
--	---------	--



おばけだ~

人の顔!



## <エピソード>

### <園庭で影遊び>

園庭にある“つるつる山”に登ったりすべり降りたりしている時。てっぺんに立った子どもたちが「あれ!?(影が)でっかくなった!」「ぼくも」「わたしも」と言う中、「えっ、なあに?」と他児の言っている事がわからなかったY児も、下を見るように他児からヒントをもらって「わぁ、Cくんおっきい」と、影に気付く。C児の真似をしてY児も「ほら、大きくなった」と影で遊ぶ。

### <四つ葉のクローバー>

以前から姉と一緒に四つ葉のクローバー探しをしていたK児は、「四つ葉のクローバーは日陰の所にあつて、見つかったらその近くにもう一つあるから、抜かないで探すとよい。水辺の近くに多い」ということを知っている。そこで、日陰の場所が多い、背の高い木がある小学校裏の原っぱで必死に探して見つけ、さらに園のビオトープ周辺で探してたくさん見つけた。翌日、同じように四つ葉のクローバーを集めたい友達に見つかる所(条件)を伝え、一緒に探して見つける。

### <室内で影遊び>

天気が悪い日が続き、影遊びを遊戯室でする。手や指、積み木や虫眼鏡など身近な物影を映し遊ぶ。「違うものをやってみても面白そう!」と、四つ葉のクローバーやタンポポ、桜の葉っぱなどの影を映して楽しむ。外の影は、何でできているのか考える。「天気がいいから」「お日様が明るいから!!夜は暗いから出ない」ぼく、お家で見てみる」など話し合う。翌日、夜に影を見つけたことが話題になる。

## みどころ

春の園庭で思い思いに自然に親しむ子どもたちの姿を、“園の考える「科学する心」”に沿うように表してみました。すると、素朴に思える姿や何気ないやりとりから、「科学する心」につながる体験をしていることが見えてきました。天気や影など自然の事象、数や形、大きさなどの特徴、場所の特徴など、遊びながら感じ取ったり遊びに活かしたりして楽しんでいきます。